

官立高等商業学校教育における人格養成

——彦根高等商業学校本科の「哲学概論」と「文化史」をめぐって——

滋賀大学大学院 今井綾乃

1 目的

本報告の目的は、滋賀大学経済学部的前身である彦根高等商業学校（以下、彦根高商、と略記）の本科における学科課程の特徴と同校の教育理念を明らかにすることである。

官立高等商業学校（以下、高商、と略記）は、1970年代から1980年代にかけ、天野郁夫によって旧制専門学校史研究の中でとり上げられた。しかし、一連の天野の研究では各高商の具体相は明らかにされなかった。

高商それぞれが個別に研究され始めるようになったのは、おおよそ2000年代に入った頃からである。例えば、滋賀大学経済学部では、キャンパス内に残されていた「彦根高商資料」が整理、公開され始め、それらを活用した彦根高商史研究が報告されるようになった。ただし、彦根高商の学科課程や教育理念を具体的に検討した研究はない。そこで、本報告は彦根高商本科の学科課程の特徴と同校の教育理念を明らかにすることとした。

2 方法

本研究は、現存する「彦根高商資料」のうち、彦根高商によって発行されたすべての刊行物を用いて、彦根高商が開校されていたすべての期間における学科課程を対象とし、彦根高商と内地にあったすべての高商の学科課程を比較する分析手法をとった。

3 結果

分析の結果、彦根高商の本科における学科課程の特徴は次の2つであった。1つ目は、内地にあった11校の高商のうち唯一、「哲学概論」と「文化史」が必修科目に継続して指定されていたことである。2つ目は、期間は限られるものの、他の高商と比べ、選択科目数が多かったことである。

4 結論

上記に示した学科課程の2つの特徴は、彦根高商の教育理念を実践するための一環であったと考えられる。その理念とは「人格養成」である。生徒が「教養ある実業家」として、さらに「経済的社会奉仕の真の能力者」となるよう、人格を養成することであった。

当時、多くの高商も彦根高商と同様に人格養成を重視していた。しかし、人格養成を実践するために、本科課程の必修科目に「哲学概論」と「文化史」を設置し、それらを中核に置いた教育体制を展開したのは彦根高商だけであった。

主な文献

天野郁夫『旧制専門学校』日本経済新聞社、1978年。

松重充浩「戦前・戦中期高等商業学校のアジア調査—中国調査を中心に—」『岩波講座「帝国」日本の学知』第6巻、岩波書店、2006年。

阿部安成「蝶番としての海外修学旅行—20世紀前期帝国日本と高等商業学校研究の展望—」『一橋大学附属図書館研究開発室年報』第1号、2013年3月。